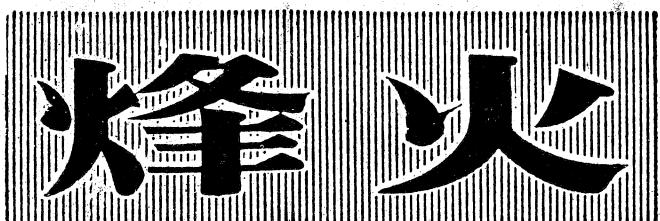


☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争—世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1979年  
8月5日  
第325号  
編集発行人 高木一夫  
一部 150円



## 共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31  
とみやビル15号 (06) 371-3706
- 郵便振替 大阪—6333
- 銀行口座 第一勧銀 515-1058150

サミット闘争  
の全成果かけ

# 帝国主義下レーニン主義党建設で80年代階級闘争へ！



反帝戦線と三支共闘の主催のもと  
サミット粉碎集会はかちとられた  
(6月28日 お茶の水公園)

国際主義かかげ80年安保、  
産業報国会化と対決せよ

全国の同志諸君！たたかう労働者人民諸君！

東京サミットは、米・日・西独・仏・伊・加の七ヶ国首脳とEC代表を集め、六月二八日から二日間にわたり開催された。そして「インドシナ難民問題に関する特別声明」と「東京宣言」を採択して閉幕した。東京サミットとこれを前後する一連の国際会議——米ソ首脳会談・SALT II調印（六月一五日～一八日）、コメコン総会（六月二六日～二八日）、OPEC総会（六月二六日～二八日）、ASEAN外相会議（六月二八日～三〇日）、カーテー訪韓・米韓首脳会談（六月三〇日～七月一日）——は戦後ヤルタ・ジュネーブ体制崩壊以後の、帝国主義・社会帝国主義の世界支配再編と国際階級闘争が新たな局面に突入しつつあることを鮮明にした。

われわれは東京サミットを「全世界の再分割のために帝国主義戦争と国際階級闘争の鎮圧を策す国際反革命会談」ととらえ、労働者人民の最先頭に立つてサミット粉碎闘争をたたかいぬいた。全世界のプロレタリアートにとって、東京サミットとそれを前後する動向が意味したものは何か。ブルジョアジーのあらゆる虚言を許さず、われわれは以下の諸点においてこれを徹底的に批判し暴露しなければならない。

戒厳令下で強行された東京サミットはプロレタリア人民に何をもたらしたか

第一に東京サミットは「歴史的にも非常に大きな意義があった」（カーテー）、「相互信頼のもとに緊密な関係をつくりあげることができた」（大平）という閉幕時の諸発言とはまったく裏腹に、帝国主義間抗争のよりいっそうの激化による帝国主義間戦争の事実上の幕あけを告げ知らざる歴史的会談となつたことである。帝国主義間の市場・資源・領土の略奪と支配＝全世界の再分割をめぐる対立と抗争は、いよいよぬき

1979年8月5日

## 烽火

さしならない局面にいたりつつある。各帝国主義は相互のむきだしの利害をかけて、帝國主義どうしが戦争をおこなう事態をも想定しつつ、全世界的規模での帝國主義戦争の本格的準備にふみだした。このような意味で東京サミットは、世界史のあらたな旋回点を画したものである。

その焦点は石油問題にある。東京宣言は三分の二を「石油・エネルギー問題」にさいた。

ここ数年間、米帝は世界の石油供給の大手をにぎるメジャーニ(国際石油資本)を背景にして、石油の世界的独占と石油価格のつりあげをおしすすめ、石油を他帝國主義諸国との抗争の武器にしながら相対的地位のまきかえしをはかつてきただ。そしてそれとともに大量的石油輸入は、米帝の国際収支の大幅赤字を生みだした。米帝はこのようないくつかの赤字を、各帝国主義に肩がわりさせるために、各帝国の国内市場の解放の要求と、米帝国内への輸入税制の強化を推進してきた。今回サミットにおいて、当初EC諸国は一致して「八〇～八五年の石油輸入量を七八年の水準以内に抑える」という、六月二二日のEC理事会での「EC域内輸入総量規制」決議にもとづく提案をおこなつた。北海油田を有し、八〇年には石油自給可能な英、また今後二百年分にあたるという豊富な石炭を有する西独など、EC諸国はEC域内の一定の石油・エネルギー資源をも背景にして、米帝、日帝のぼう大きな石油輸入(略奪)に歯止めをかけようとしたのである。これにたいして米日帝は「七九・八〇年に限り国別規制」を提案しEC諸国に対抗した。ところが事態は急変したのである。

東京宣言の合意とは、各帝国主義の文字どうりの力に応じた強盗的取り引きの産物にほかならない。かかる帝國主義の合意とは、次の対立と抗争の出発点以外を意味しない。そしてそれは、より激しい帝國主義間の石油・核資源をはじめとしたエネルギー資源の略奪と支配をめぐる抗争に、必然的に転化されてゆくのである。

したがつて第二に、東京サミットこそは石油資源の略奪のために、直接にはアラブ産油国を最大の対象にした侵略反革命体制を、各國帝國主義が競いあつたことが、徹底批判されねばならない。

東京宣言は次のように主張した。「われわれは、最近のOPEC会議においてとられた決定を遺憾とするものである。……合意された石油価格の不当な上昇は……一層の世界的なインフレと、より低い成長を意味する。そ

れは……世界の開発途上国および先進国の安定を等しくおびやかすこととなる」と、「盗人の論理」とはまさにこのことである。

石油価格を一方において「不當に」上昇させたのは誰か。「世界的なインフレ」をもたらした根源は何か。帝國主義(資本主義)である。

帝國主義は「石油危機」を排外主義的にキヤンペーンしつつ、まさに「油田確保のためには軍事力の行使も辞さない」(カーター)

という石油略奪の戦争策動を強めているのである。そしてそれは、イラン革命やニカラグア革命にしめされた反帝民族解放闘争の絆殺と、被抑圧民族にたいする民族的抑圧・蹂躪の強化の野望に一直線につらなつていているのである。

東京サミットが意味したもの第三は、それが帝國主義による国際共産主義運動内部の路線闘争への反革命的介入をとおした、國際階級闘争鎮圧の新たな宣言であつたことである。

このもつとも顕著な例が「難民声明」であった。東京サミットは「インドシナ難民問題」を「特別」にとりあげて「声明」を発表した。特別声明は「ベトナム、ラオスおよびカンボジアからの難民の惨状は歴史的規模をもつた人道上の問題を提起しているとともに、東南アジアの平和と安定にとつて脅威となつてゐる。……人々の現在の辛苦と苦悩を除去するための緊急かつ有効な措置をとるよう呼びかける」とのべ、「人道上の問題」を大義名分に、反ベトナム反社会主義の一大キャンペーンの糸口をつけた。

帝國主義は一連の国際會議において「難民問題」を攻勢的にとりあげ、またシアヌークをかぎあげての「カンボジア中立政権構想」にしまされるよう、あらゆる手段を動員して包围・干渉・介入の策動を展開している。他方、自国内労働者人民にたいして帝國主義は「社会主義」への絶望感と憎悪を組織し、六〇年代のベトナム反戦闘争いろいろ帝國主義下階級闘争のうちに、嘗々として受けつけられてきた。

他方、のちにも触れるように、六月二二日東京において「労働サミット」が、帝國主義諸国内の社帝労組指導者を結集して開催された。

この二つの異なる社会帝國主義の動向は、国際階級闘争の鎮圧と、帝國主義の侵略反革命运体制の強化を左から補完するという点において、本質的に同質のものである。ソ連社会主義への絶望感と憎悪を組織し、六〇年代のベトナム反戦闘争いろいろ帝國主義下階級闘争のうちに、嘗々として受けつけられてきた。

東京において「労働サミット」が、帝國主義諸国内の社帝労組指導者を結集して開催された。

この二つの異なる社会帝國主義の動向は、国際階級闘争の鎮圧と、帝國主義の侵略反革命运体制の強化を左から補完するという点において、本質的に同質のものである。ソ連社会主義への絶望感と憎悪を組織し、六〇年代のベトナム反戦闘争いろいろ帝國主義下階級闘争のうちに、嘗々として受けつけられてきた。

## 激化の一途をたどる 日帝の80年安保攻撃

1979年8月5日

これは……世界の開発途上国および先進国の安定を等しくおびやかすこととなる」と、「盗人の論理」とはまさにこのことである。

石油価格を一方において「不當に」上昇させたのは誰か。「世界的なインフレ」をもたらした根源は何か。帝國主義(資本主義)である。

ヤンペーンしつつ、まさに「油田確保のためには軍事力の行使も辞さない」(カーター)

という石油略奪の戦争策動を強めているのである。そしてそれは、イラン革命やニカラグア革命にしめされた反帝民族解放闘争の絆殺と、被抑圧民族の強化の野望に一直線につらなつていているのである。

アートが樹立したプロレタリア独裁権力を、実践的に「承認」(批判的にせよ肯定的にせよ)することができなければ、帝國主義の階級闘争鎮圧の前にまつたく無力であるとある。そこでそれは、イラン革命やニカラグア革命にしめされた反帝民族解放闘争の絆殺と、被抑圧民族の強化の野望に一直線につらなつているのである。

アートは「石油危機」を排外主義的にキヤンペーンしつつ、まさに「油田確保のためには軍事力の行使も辞さない」(カーター)

という石油略奪の戦争策動を強めているのである。そしてそれは、イラン革命やニカラグア革命にしめされた反帝民族解放闘争の絆殺と、被抑圧民族の強化の野望に一直線につらなつているのである。

アートは「石油危機」を排外主義的にキヤンペーンしつつ、まさに「油田確保のためには軍事力の行使も辞さない」(カーター)

## 烽火

れと対決していかねばならない。

第一に日帝は、帝国主義間抗争にうちかつために急速度に、独自の新植民地主義的権益圏の確保につきすすまざるをえないことである。

日帝は外相園田が出席して開催された ASEAN 外相会議は、この面での特筆すべき位置を画した。外相会議は、「ベトナムは『人間爆弾』である難民を流出させ、東南アジアを混乱におとしいれている」(シンガポール外相)と、「難民問題」をとりあげてベトナムを名指しで批判し、ASEAN 諸国との政治的結束の強化をうたいあげた。そして日帝は園田は、会議後の記者会見において、①インドシナ難民問題は ASEAN 諸国にとって安全保障上の問題となつており、そのためには ASEAN は急速に政治的性格をおびてきた②日本は ASEAN と一体となつてすすむのでなければ政治的発言力は強くならない③「環太平洋構想」は当面は ASEAN・豪・ニュージーランドにかぎり、この三者が一体となつて深い団結をつくるとのべた。この園田発言が鮮明にしめしたように、日帝は ASEAN の政治的軍事的同盟としてのうちかためを主導しつつ、ASEAN の事実上の盟主としての確固たる位置を築きあげんとしている。六五年日韓条約を画期とした南朝鮮への新植民地主義支配と、ASEAN 諸国にたいする支配とを結びつけ、東アジア一帯の政治的軍事的盟主として登場することをもつて日帝は、ますます激化する帝国主義間の抗争戦への対抗軸を形成しようとしているのである。

だが第二に、それは日帝がいよいよアジアにおける反帝民族解放闘争、なかんづく民族解放―社会主義勢力の前進を鎮圧する首謀者として登場することにはかならない。日帝は民族解放―社会主義勢力内部の路線闘争への介入と、その社帝化を展望した帝国主義外交を展開し、八〇年安保を統合環にした侵略反革命戦争遂行体制の強化へと、まつしぐらにつきすすんでいる。

この日帝の八〇年安保攻撃は、(1)「日米防衛協力ガイドライン」(昨十一月)にもとづく日米安保体制の実戦化・即戦化、(2)今春の永野陸幕長の訪韓をはじめとした一連の防衛府制服組の訪韓にしめされる日韓体制の軍事的強化、(3)沖縄侵略反革命前線基地の朝鮮・アジアにむけた直接出撃拠点化、(4)有事立法・防衛二法改悪・新三矢作戦研究などと運動した、海外派兵・核武装をなしうる自衛隊の強化の四点を軸にすすめられている。とりわけ日米共同作戦体制の強化は「沖縄駐留米軍海兵隊と陸上自衛隊の合同実践演習を来年をメドに準備する」(五月三一日永野陸幕長)、「B52 もよび米空母を参加させた日米空軍の合同軍事演習を準備している」(六月二日竹田空幕長)とうちつづいた自衛隊制服組の構想にしめされるように、日米合同軍事演習の強化を要にして急ピッチで進行している。そ

してすでにその一部は、七月十日から十三日にかけての沖縄での日米空軍による合同演習へと具体化されているのである。

かかる帝国主義の攻撃下で、六月二十五日のカーター訪韓反対をかけ学内デモに決起した高麗大生のたたかいにしめされよう、朝鮮・アジアのたたかう人民の反帝闘争は、依然として苛酷な弾圧に屈することなく燃えひろがつていて。

## 七九春闘に示された

東京サミットは、開始された革命的危機への移行に際しての敵の新たな攻撃を示した。

では、それは帝国主義下階級闘争、とりわけ労働運動のなかでどのようにあらわれてきたのか。この点に触れていく。

東京サミットに先立ち、東京サミット参加七ヶ国の労組と I C F T U (国際自由労連) はじめ五つの国際労働組織の代表が、六月二日、「東京労組指導者会議」(労働サミット)を開催した。これはロンドン・ボンの両サミットに続いて、労働サミットとしては第三回目にあたる。

商業新聞においても「初回から参加した同盟は別として、反自民・反独占の立場から、常に政府と対決の姿勢をとつてきた総評が、今回はじめてこの仲間入りをしたことは総評の国際運動面での右旋回を意味する」(読売六・二三)と評されているように、総評も含めて帝国主義下の労働組合幹部、労働手代たちの、帝国主義の危機の救済と自國帝国主義の利益の擁護を共通項とした、サミットへの提言に目的づけておこなわれた。

したがつて労働サミットは、当然ながら東京サミットとほぼ同じテーマで協議され、労働者内部におくりこまれたブルジョアジーの手代の位置から、深刻化する帝国主義の危機のなかで生じてきた諸問題への対応策、切り抜け策を先進帝国主義首脳に進言するという形をとった。

具体的に見ていくと、第一に、「労働者、労組の完全な参加によってのみ、成長、調整計画は合理的なものになりうることを大前提に、「昨年のボン・サミットで採択された経済成長に関する諸決定は若干の成果をあげた」と帝国主義首脳会議を手ばなしで賛美し、「不況が長期化するほど社会的分裂をもたらす失業の危険が大きくなる」(労働サミット声明―総論)との心配を表明している。それは、「社会的分裂」―階級対立の激化に対する、彼らの真底からの恐怖と、反革命的企図をこそ示している。

第二に、「雇用と経済成長」に關しては、「完全雇用こそ当面の目標であり、そのための健全な経済成長が必要である」とし、「徹

してすでにその一部は、七月十日から十三日にかけての沖縄での日米空軍による合同演習へと具体化されているのである。

かかる帝国主義の攻撃下で、六月二十五日のカーター訪韓反対をかけ学内デモに決起した高麗大生のたたかいにしめされよう、朝鮮・アジアのたたかう人民の反帝闘争は、依然として苛酷な弾圧に屈することなく燃えひろがつていて。

これらはすべて、帝国主義ブルジョアジーと共通のテーマを、共通の立場―帝国主義の危機を救済するというから要求しているものにはかならない。まさに、労働サミットこそ、中間連合政府攻撃を通した労組の産業報国会化のなかでの、帝国主義下の労働手代達の帝国主義の危機の救済―自國帝国主義擁護を自ら宣言したものなのであつた。

七九春闘は、労働運動の産業報国会化が、総評労働運動の再編を焦点にしてもやおしとどめようもなく進展したことを見てもわかる。さられ出した。同時に新たな労働者の決起がその対局で開始された。これこそ、革命的危機への移行の開始の時における、最も広汎で、大衆的な攻防である。

七九春闘は、昨七八春闘が例年になく長期化したのに比して、短期間の、まさに脱兎のごとき終結であった。それは、日帝ブルにより「管理春闘」「ストなし春闘」としての労働者決起への圧殺に、総評も含めた労働貴族たちの一一致した協力をもつてはじめて可能のことであった。

すでに七八春闘においても、ふきあれる解雇・合理化攻撃のなかで、全通のスト離職をひきだした弾圧体制の強化、国労へとまじい処分など「政府、財界のきびしい賃金抑制、政治的圧力」は、商業新聞でさえそう指摘せざるをえないほど顕著であった。七九春闘では、四月九日私鉄の回答指定日での大手企業の回答延期や、私鉄に先行した国鉄・公労協への調停先行という異例の出来事に示されるように、政府の強い介入により「春闘が終結」を日帝ブルとともに露骨に策動したことは今春闘の大きな特徴の一つである。

それは、日経連が七九春闘総括の報告で、「最近は労使双方で意見はそう違わない。これまでにも述べてきたように、現下の階級闘争の転換のなかで、総評の主軸たる公労協の解体が、全電通の統一ストからの離脱として一層、進行したことである。

今春闘のもう一つの特徴は、われわれがこれまでにも述べてきたように、現下の階級闘争の転換のなかで、総評の主軸たる公労協の解体が、全電通の統一ストからの離脱として一層、進行したことである。

それは、日経連が七九春闘総括の報告で、「最近は労使双方で意見はそう違わない。地元に階級闘争を呼号する一部官公労のみ」はなんとかせねばならないとして、全電通にそこの役割を期待―公労協を内部から完全解体せんとしている。

## 烽火

そして、全電通の労働貴族は、そのようだ  
ブルジョアジーの期待にこたえ、二五日から  
の公労協ストから離脱、二四日からのストを  
決め、それもただちに同日早朝六時半をもつ  
て中止するという形で、公労協からの離脱を  
鮮明に印象づけた。その後の総括で、全電通  
書記長山岸は、来春闘での「事後対処方式」  
への転換や産別強化をはかる「電通労連」へ  
の改名を示唆して、全電通の独自路線（公労  
協の内部からの解体→労働戦線の右翼的統一  
ー再編）を強調するに至った。

これまで賃上げの要求額を総評が先ず決め  
同盟などはそれを下回る水準で追随するとい  
う形をとつてきたが、七九春闘はそのはじま  
りにおいてJCー同盟が主導権を握つて全体  
をリードしたという意味でも、なによりも労  
資の話し合い、協調により危機を打破しよう  
という基本において「JC春闘」というこ

経済要求をかちとるためという制約を課し

ての闘争さえも組織せず、労務担当者と労組幹部による管理質上げ相場の色合いが一段と強まつたことは、「『賃金を上げなければストをするぞ』から『ストをしないから賃金引

き上げろ』というパタンの変化である」と商業新聞では表現されている。

闘争力の低下という点については、すでに昨年六月一九日公企体等基本問題会議が「現段階では（公労協の）スト権は認められない」とする意見書を出したのに対し、当初予定されていた反撃さえも組織しえなかつたことに象徴されており、日帝ブルによる労働運動の産報化へ向けての攻撃への社帝労組幹部の屈服はすさまじく、否それは、すでに積極的協力—労働運動内部でのケン引者となつてゐるのである。

このかんの、沖電気、住友重機での大量指名解雇、石川島播磨四七〇名はじめ造船企業でのあいづぐ大量解雇攻撃、そして今春闘のまつ只中ににおける八千余名にのぼる全通反マル生闘争への大量報復処分、動労千葉破壊攻撃、国鉄七万四千名合理化計画として、日帝ブルジョアジーの侵略反革命戦争遂行体制のなかにガッチャリと労組をくみこむ攻撃は、し烈かつ大規模、集中的になつてきている。とりわけ、全通不当処分にしめされる反マル生闘争の中核たる、東京地本、組合幹部よりも無名に近い活動家への集中攻撃、また大量の懲戒免職、解雇攻撃は、その基本的ねらいが、明確に新たなレッドページ攻撃としてあることに注目せねばならない。反マル生闘

争の実際的担い手を職場から切り離し、組合財政を弱化させ、路線そのものの転換（労資協調—産報化）の物質的基礎をつくり出すことに照準をあてている。それはすでに、本年七月十日の全連大会で、『対決型から協調型の運動路線に転換をはかる方針案』の提出を社帝劳組幹部から引き出すに至っている。

そして、労働運動の産業報国会化へ向けての帝・社帝の動向は、以降、J.C.—同盟主導の労働戦線統一の具具体化、それへの総評のくみこみとして進行している。

たか  
るのよな帝・裕帝の産率作攻撃に  
対して、戦闘的労働者の決起が至る所で開始  
されて、る。失调はじら各組合大会での下部

から不満、批判の噴出や、昨年全通大会で執行部への三分の一にのぼる不信任票は、プロ大衆の社帝幹部への憤激を大衆的に表現しているし、全通の反マル生闘争、および丸山分崩闘争の一大爆発、沖電気はじめ指名解雇攻撃に対するしつような反レッドページ、解雇反対闘争の激化、全金ペトリ、全金本山全金田中機械をはじめ民間中小未組織労働者における労働争議の増加などである。

それはブルジョアジーとその労働手代に対する萌芽的な、大衆的な分離である。これを鮮明な政治的分裂へと発展させるためにこそ、その内部でたかわなければならない。

## 79前半期の全成果を 八〇年代党建設へ/★

東京サミット粉碎闘争は八〇年代階級闘争の成否をにぎる闘争としてうちぬかれた。帝国家権力は史上空前の弾圧体制をもつて東京サミットを強行開催した。われわれは、敵のなりふりかまわぬ攻撃のうちに、八〇年代にむけた攻撃の基本的性格を見出すことができる。

あり、人民を侵略反革命戦争へと暴力的に動員せんとするための巨大な布石であつた。彼らはまず、わが革命党と広範なプロレタリア大衆を分断することに力を注ぎ、現行ブルジョア法をみずからふみにじつた非合法的攻撃を革命党建設に集中した。

——それは、天皇の政治過程への実質的な参加である。天皇のサミット参加の帝国主義主脳の招待で、天皇は、天皇のサミットとして敵の基本戦略の主柱である。

図であつた。この先端での目的意識化された攻防の質と、資本主義の危機の深まりのなかで自然成長的に開始された日本階級闘争の転換の動向、流動と分解とが、プロレタリアアートにこうした前衛性によって統合されござる。

トのたたかう前衛党によつて統合されねはならないこと—ここに七九年前半期の階級闘争を実践的で發展する中心がある。

日本階級闘争の巨大な流動と分解の開始。第一に、それは何よりもまず、戦後世界支配体制＝ヤルタ・ジュネーブ体制崩壊後の帝国主義間対立の激化——帝・社帝の世界支配再編策動の激化の産物である。各帝国主義はたがいにしのぎを削りつつ、自己の勢力圏を求めて抗争しあい、自国内において大規模な政治反動、搾取と収奪の嵐をまきおこした。わが国においてそれは、円高不況からの脱出を名目とした一大合理化と大衆収奪の攻撃として、さらに戦争遂行をもくろむ有事立法攻撃一連の反動立法制定の攻撃として進行した。

高度経済成長の神話は音をたててくずれ去

り、失業の脅威と生活不安が労働者人民においかかっている。眠りをさまされたぼう大な人民が、徐々に生活そのものによつて階級闘争の戦場にひき入られつつある。

た人民闘争の戦場において、帝国主義の反動的政策に反対する闘争（政策阻止闘争）から権力打倒闘争への飛躍の萌芽が生みだされつあることである。すなわち長期にわたつて非妥協にたたかいつづけてきた人民のながら、自己の自然発生的要求のうえに、国家権力との全面的闘争にたちあがろうとする戦士が生み出されつつあることである。

第三に、労働運動の戦場において、国家権力、当局、資本とますます深く融合してゆく社会帝国主義既成指導部の闘争破壊に抗して、

ますます多くの戦闘的労働者の決起が生みだされていることにある。それは戦後日本労働運動を支配しつづけてきた「日本型戦闘的労働組合主義」＝総評労働運動の再編と軌を一にしつつ、これにかわる新たな労働運動を革命的に再建してゆく主体としての成長をとげんとする苦闘の途上にある。

命的プロレタリアートは大衆の政治的前衛となつてこのすう勢をいつそう促進せねばならない。

そして、全電通の労働貴族は、そのようだ  
ブルジョアジーの期待にこたえ、二五日から  
の公労協ストから離脱、二四日からのストを  
決め、それもただちに同日早朝六時半をもつ  
て口二十一という形で、八九場からの離脱を

て中止するという形で、公労協からの離脱を鮮明に印象づけた。その後の総括で、全電通書記長山岸は、来春闇での「事後討伐方式」

の改名を示唆して、全電通の独自路線（公労協の内部からの解体→労働戦線の右翼的統一再編）を強調するに至った。

これまで貢上げの要求額を総評が先ず決め同盟などはそれを下回る水準で追随するという形をとつてきたが、七九春闘はそのはじまりにおいてJ.C.—同盟が主導権を握つて全体をリードしたという意味でも、なによりも労資の話し合い、協調により危機を打破しようという基本において「J.C.春闘」ということができる。

経済要求をかちとるためという制約を課し

ての闘争さえも組織せず、労務担当者と労組幹部による管理質上げ相場の色合いが一段と強まつたことは、「『賃金を上げなければストをするぞ』から『ストをしないから賃金引

き上げろ』というパタンの変化である」と商業新聞では表現されている。

闘争力の低下という点については、すでに昨年六月一九日公企体等基本問題会議が「現段階では（公労協の）スト権は認められない」とする意見書を出したのに対し、当初予定されていた反撃さえも組織しえなかつたことに象徴されており、日帝ブルによる労働運動の産報化へ向けての攻撃への社帝労組幹部の屈服はすさまじく、否それは、すでに積極的協力—労働運動内部でのケン引者となつてゐるのである。

このかんの、沖電気、住友重機での大量指名解雇、石川島播磨四七〇名はじめ造船企業でのあいづぐ大量解雇攻撃、そして今春闘のまつ只中ににおける八千余名にのぼる全通反マル生闘争への大量報復処分、動労千葉破壊攻撃、国鉄七万四千名合理化計画として、日帝ブルジョアジーの侵略反革命戦争遂行体制のなかにガッチャリと労組をくみこむ攻撃は、し烈かつ大規模、集中的になつてきている。とりわけ、全通不当処分にしめされる反マル生闘争の中核たる、東京地本、組合幹部よりも無名に近い活動家への集中攻撃、また大量の懲戒免職、解雇攻撃は、その基本的ねらいが、明確に新たなレッドページ攻撃としてあることに注目せねばならない。反マル生闘

争の実際的担い手を職場から切り離し、組合財政を弱化させ、路線そのものの転換（労資協調—産報化）の物質的基礎をつくり出すことに照準をあてている。それはすでに、本年七月十日の全連大会で、『対決型から協調型の運動路線に転換をはかる方針案』の提出を社帝劳組幹部から引き出すに至っている。

# 戒厳体制突破し決起 6・28

# 東京サミット粉碎闘争 80年代への火ぶた切る！

日帝の侵略反革命を内戦に  
べく、帝国主義の支配の危  
命的危機へと転化する革命命

われわれの眼前で世界の階級闘争の大転換が開始されている。資本主義の全世界的危機が深まり、帝国主義間の強盗的抗争の激化は帝国主義戦争の嵐の時代の開始を告げている。中国—ベトナム戦争に示されるように国際共産主義運動—国際党派闘争は新たな局面を迎え、世界党建設—世界プロ独立にむけた革命的プロレタリアートの苦闘に満ちた進撃が開始された。帝国主義本国の人民は、失業と生活不安に振り動かされ、階級闘争の新たな流動と分解が開始さ

(社共政権)の願望を対置し中間連合政府の水先案内役をはたした四トロリ右翼日和見主義か?反帝闘争の枠内においてしかたないを提起しえず中間連合政府の「左から」の補完物としての姿を明らかにした急進民主主義=中核派か?否/否/今こそ世界党建設=世界プロ独樹立の赤旗が高くかかげられねばならない。中間連合政府の要求か、蜂起=プロ独の準備か、この分岐が階級闘争の転換点に銳くうちこまれなければならぬ。

を機動隊の重包囲下においていた。大坂駅において、東京駅においてくりかえされる不当な検問。だがわが部隊は固く密集しサミット戒厳令を突きぬけて、二八日午後一時お茶の水駅頭に敢然と登場し武装情宣闘争を貫徹する。そして敵権力の妨害をはねつけてお茶の水公園に進撃した。

「帝・社帝打倒！侵略反革命戦争の準備策す東京サミット粉碎！」（全国委）と三里塚闘争支援労働者青年共闘会議の原則的な一日共

争の社会的支柱へと純化する社帝との闘争を訴え、東京サミット粉碎闘争を帝・社帝の産業報国会化攻撃と固く結びつけてたたかうといふ決意を明らかにする。

集会はつぎに、勤労千葉・全金本山・大城昌夫氏から寄せられた熱烈なアピールを拍手で確認する。

そして三里塚の地から本集会にかけつけられた反対同盟の北原事務局長は「東京サミットは戦争への道を歩む会議である。戦争を選ぶのか日本の平和を選ぶのかが今問われている。三里塚闘争の勝利

排外主義の沼地に沈められるであろう。  
だからこそ、現実の階級闘争のただなかで  
の権力問題をめぐる党派闘争、党建設が決定的  
に強化されねばならない。資本主義の危機  
を国家と国民の危機にすりかえ、資本主義に  
よつてもたらされる災厄と資本主義の根本的  
矛盾が、中間連合政府の樹立によつて解消さ  
れていくと説く、社会帝国主義潮流の影響下  
からプロレタリアートを解き放たねばならな  
い。

われわれは次のようにはつきりと主張しようと  
う。八〇年代階級闘争と八〇年代党建設の根  
本的分歧——中間連合政府の道か、武装蜂起—  
プロレタリア独裁の準備か——が開始された階  
級闘争の転換点に確実にうちこまれねばなら  
ないと。

東京サミット粉碎闘争をめぐる党派再編の  
進行もまた、この点を分岐点としたものであ  
つた。社共＝社会帝国主義は、東京サミット  
を公然と擁護し、積極的承認を与え、もっぱ  
ら自己の役割を帝国主義にたいする政策要求  
と、たたかうプロレタリアート人民のサミッ

頭目」第四インターはひたすら「保守中道勢力の抬頭」におびえつつ、社共政権の誕生を願望し、かかる視点からペテン的に東京サミットにさいして「革命的祖国敗北主義」なる空文句を叫んだ。彼らのかかげた「革命的祖国敗北主義」とは、武装蜂起と内戦ではなく反戦平和内閣への希求であり、その意味で彼らは「サミット闘争」を取り組むことを通じて社共の中間連合政府路線への屈服と合流を深めたといいうる。

そして他方、一部の毛派系右翼日和見主義者たちの露骨な転落が進行した。反ソ反霸権主義路線にのめりこむ彼らは、サミットにたいして社共とまったく同様の態度をとり、「日本軍国主義との闘争」という視点すら放棄し、いつさいを北方領土返還なるブルジョア民族運動に流しこんだ。〃ソ連の脅威に対抗する強力な政府〃の実現を要求するという点では彼らもまた中間連合政府派の一派流である。

ところでこうした右翼日和見主義者達の転落にたいし、これとたがおうとした革共同中核派は、サミット闘争を結局のところ政策

的任務における日和見主義を露呈した。  
すべてのたたかう同志友人諸君！  
かくして七九年後半期階級闘争への扉はこ  
じあけられた。八〇年へとむかうこの一時期、  
国際主義に武装されたわが中央集権非合法党  
とこのもとに結集する革命的プロレタリアー  
トの任務は重大である。帝・社帝の全世界の  
再分割と戦争の野望はますます激しさの度を  
加えるでであろう。国際共産主義運動内部の対  
立と分裂は、社帝との国際党派闘争を軸にして  
て新たな要素をますます増大させるであろう。  
いまこそ世界党—世界プロレタリア独裁の国  
際主義の旗、武装蜂起—プロレタリア独裁の  
旗が堅持され、かかげきられなければならな  
い。

八・九月、八〇年安保、沖繩、狹山、三里  
塚二期決戦のたたかいに総力をあげて決起し、  
八〇年代階級闘争と八〇年代党建設への偉大  
な幕あけを準備しよう。

The image shows a page from a Japanese newspaper from August 5, 1979. The main headline, located at the top right, reads "Reform of the Capitalist System Breakthrough Decision" (戦闘体制突破決起) dated "6・28". Below the main headline, there is a large, bold title "Tokyo Summit粉碎闘争 80年代への火ぶた切る!" (Tokyo Summit粉碎闘争 80年代への火ぶた切る!). The page is filled with columns of text in Japanese, discussing political issues, international relations, and specific events like the Tokyo Summit and the Sino-Japanese War.

は全人民の勝利である。反対同盟は二期工区決戦を全力をつくしてたたかいぬく」と熱烈に訴えた。

戦、武装せる革命の伝導路の建設に戦に結集せよと訴え、たたかいの方向を鮮明にさし示した。集会を終始戦闘的熱気と友好的ふんいき

八、首都総決起を固く確認した。  
また、六・二三東京サミット粉碎闘争、良良昭氏のアピール、基調の提起を  
繩闘争勝利／沖縄集会が全沖縄  
たたかう人民を結集し開催され  
た。集会は、金武湾を守る会の平  
受け、六・二八中央闘争へ代表派  
遣を先頭に、東京サミット粉碎闘争  
を全力でたたかうことを確認した。

# 6・28集会に寄せられたアピール

## いまこそ歴史的決起を

帝国主義間の石油・エネルギー資源をめぐる強盗的とりひきの会議であり、民族解放―社会主義勢力の包囲・封殺・解体と帝国主義足下階級闘争の結合を阻止することを焦点にした国際階級闘争の鎮圧にむけた会議であると鮮明にバクロし、今こそ中間連合政府の要求に分岐を鮮明にし、蜂起―プロ独の準備かといふ司令部Ⅱ中央集権非合法党の建設

(六・二三闘争) ぬいた。  
六・二三闘争は、六・二八闘争にむけた巨大なうねりを創出すべく、沖繩・関西をつらぬいてたたかわれた。

関西においては六月二三日夕刻京都円山公園に全関西のたたかう労働者人民を結集し、三条河原までの戦闘的デモを貫徹し、六・二



経済戦争の次は軍事戦争  
がやってくると訴える北  
原鉱治反対同盟事務局長

的危機にのたうつ帝国主義支配のあいさつをおくります。まさに東京サミットこそ体制歴史的分岐点であります。この一週間、数十万の機動隊を動員し、首都圏から人も車もしめだし、ライフル部隊を配置すると、いう、このサミット戒厳令の姿のなかにこそ八〇年代日本支配階級が何をねらっているのかをありありと示しているではあり

朝鮮アジアへの侵略の先兵をはたしたという恥すべき歴史をキッパリと拒否したたかいぬこうではありませんか。

動労千葉はいかなる反動、弾圧にもうちかち、全国の支援のみなさんとともに、最後までたかいぬき、かららず勝利する決意をあきらかにし、連帯と共に闘のあいさつとします。

ために開かれたのが東京サミットである。これは世界の後進百ヶ国と被抑圧民族にたいする脅迫であり略奪宣言である。

このため来日した米大統領を迎えて日本帝国主義とその報道機関は、米国との友好親善の大宣伝を昼夜をとわざくりかえして放送し、アメリカとの協力と日米安保体制を守る方向に国民精神を総動員し、日米軍事同盟の強化のためにさわぎまわつて

器をとつてソ連などの社会帝国主義国と戦争をさせることであることはなんびとも否定することはできない。東京サミットは危険な会議であり、戦争計画の会議である。だが後進諸国が社会主義国と結びつくならば資本主義が敗北することはベトナム戦争が証明している。彼らはこの戦争を遂行するために中国の社会帝国主義者を資本主義陣営につなぎとめることを東京サミットの重要な議題にしている。米ソ戦争をあわよくば中ソ戦争に

連帶」「勤労内大改革」の旗を  
かかげて前進するわが勤労千葉  
に全力を傾注し、このたたかい  
にのぞむ所存です。

石油を自由に使わせろ」と脅迫し、OPEC（後進石油輸出国）が東京サミットに回答することを迫っている。帝国主義者から工業製品を高く売りつけられ、自国の石油と一次産品を安くとあげられている後進諸国にたへら各事に面倒、苦行

いありでいる。このよくなふ  
んい気をもりあげるならばつい  
には徴兵法や兵役法をつくりあ  
げることもやむをえないことに  
なるのである。

有事立法、元号攻撃、さらに急激に進行している軍事大國化核武装化攻撃をみるとき、いまこそ私達日本の労働者階級人民が、この攻撃と真正面から対決したたかいぬくべき歴史的時点が、ついに到来したのだと確信します。

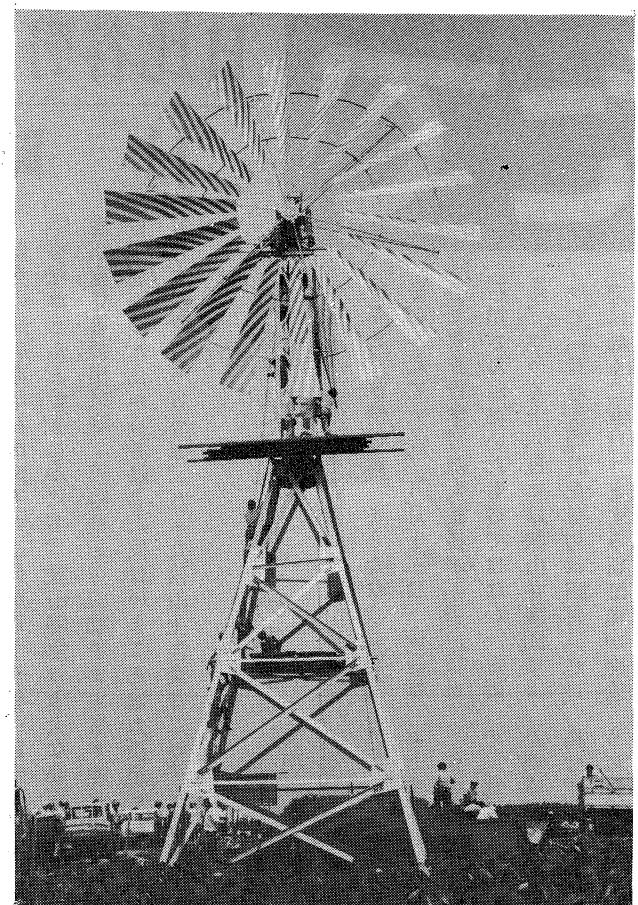
東京サミットを粉碎しよう！

親愛なる労働者・学生・市民のみなさん。帝国主義者は深刻な内外の矛盾をかかえて東京サミットを開いた。彼らは世界の石油・エネルギー問題を解決する七つの帝国主義大国の首脳が集まつたが、彼らに石油を提供する後進産油国は排除されてい

る。帝国主義者はこれら後進国

ソ連・中国・ベトナム・キューバなどの社会帝国主義の首脳を排除していることである。特にソ連にたいする敵意をろこつにありたてている。公海を航行しているソ連空母ミンスクがいともに世界的役割をはたすことにもはやかくすることはできない。日本帝国主義は、米帝国主義と共に日本の北方・西方・南方でおかにも日本の領海に侵入したかのように恐怖と敵がい心をあおりたて、強敵ソ連にたいして日本国民が武器をとつて対抗しなければならないような空氣をつくりたて、争の戦場になることはさけることができない。第二次大戦で日本は六四六万人の戦死傷者をだすりかえて漁夫の利をにぎるためである。東京サミットの正体

火 焰



## 風車が立った 三里塚

9・16全国集会へ

あらたな結合の開始を切りひらいたのだ。  
姫百合—白銀闘争より四年を経て、われわれは日帝の『戦争とフアシズム』の準備と対決し、沖縄・「本土」をつらぬく武装蜂起—  
白銀闘争は日帝の侵略反革命と対決し、それを要とした沖縄・「本土」労働者人民の

あらたな結合の開始を切りひらいたのだ。  
姫百合—白銀闘争より四年を経て、われわれは日帝の『戦争とフアシズム』の準備と対決し、沖縄・「本土」青年は火炎ピンを手に、戦犯天皇決死糾弾・皇太子沖縄上陸阻止／の旗をかかげ、姫百合の塔において、白銀病院において断固としておしすすめなければならぬ。七二年沖縄

七五年七月一七日、嚴戒体制の中で沖縄に上陸した皇太子アキヒトにたいし、沖縄解放同盟をはじめとした沖縄、「本土」青年は火炎ピンを手に、戦犯天皇決死糾弾・皇太子沖縄上陸阻止／の旗をかかげ、姫百合の塔において、白銀病院において断固としておしすすめなければならぬ。七二年沖縄

「返還」をとうして沖縄闘争の鎮静化を突き破り、七・一七姫百合—白銀闘争は日帝の侵略反革命と対決し、それを要とした沖縄・「本土」労働者人民の

## 姫百合—白銀闘争四周年 沖縄闘争の新たな飛躍誓う

沖縄・関西・関東

らない。本年七・一七闘争は、沖縄の同志の四・二八・六・二三にいたる搖るぎない革命的政治闘争の組織化のうえに、沖縄・関西・

関東をつらぬいて戦取された。沖縄におけるたたかいは七月一日の「七・一七闘争四周年／安保・沖縄闘争勝利／沖縄集会」を

もつて開始された。集会は司会の「日帝—西銘体制のもとで沖縄はあいさつに続き、基調提起をうける。基調をめぐって集会参加者との活発な討論がおこなわれたのち、アシズムの準備と対決し、沖縄・「本土」をつらぬく武装蜂起—園労組の労働者は「ゆうな学園にたり、金武湾を守る会やゆうな学園のたたかいは社帝の制圧をくい破るたたかいの報告に立ったゆうな学生たちのたたかいと結合し、七月一七日夕刻大正駅頭において情宣闘争

提唱した。そして七月一七日、沖縄同主催による「ひめゆり—白銀闘争四周年・一七沖縄青年団結論集会が開催された。われわれは大城昌夫氏、知念政光氏を講演にむかえておこなわれたこの集会に結集し、沖縄同をはじめとした沖縄労働者人民とともにたたかいぬいた。関西においては、沖縄現地にて開催された反帝戦線（全国委）の同志は、蜂起—「獨を準備せよ！」とたたかいの方向を鮮明に提唱した。

また、関東においては、関東沖解同主催の「ひめゆり白銀闘争四周年沖縄解放集会」がもたらされた。集会冒頭に「沖縄列伝 P A R T I」「久米島大虐殺の記録」が上映され、つづいて富村順一氏のあいさつ、関東沖解同のあいさつがおこなわれ、七・一七闘争の発展を金城実氏の沖縄戦を糾弾する大レリーフの展示会を組織するなかでかちとろうと提起された。

した。これは資本主義のためのいたましい犠牲であつた。第三次大戦がおこるならば、これの数倍の犠牲者をだすであろう。

資本主義のために国民を犠牲にすることは許されない。平和のために決起しよう。なにものが政府が戦争をおこすにせよ、すべて打倒されなければならない。政府をおこすにせよ、いかなる戦争をおこすにせよ、いかなる政府が戦争をおこすにせよ、すべて打倒されなければならない。政府を守るために、国民を流血から守るために、「戦争を内乱に」転化しよう。幾百万の人々がともに天皇制と資本主義を打倒し、プロレタリアートのソヴィエト権力をうちたてよう。

### 産報化に抗したたかう

としています。日帝はといえども、「元号法制化」攻撃など天皇を頂点とする反動の嵐は一層激しく、朝鮮・アジア侵略戦争への道をまい進しています。

全金本山  
製作所支部

本日の集会に結集された全国のたたかう仲間のみなさん。全勤運動として「一人の首切りも転化しよう。」とたたかう決意を送りたいと思いません。

金本山支部より連絡のあいさつです。ともに、東京サミットで帝国主義各国は米帝を中心に利害調整し、アラブの人民の革命闘争を共同で抑圧し、その血にぬられた石油確保によって、ふたたび侵略戦争をやらん

脱落分子を利用した組織統制処理を、宮城地本はひれつにかけてきました。ところが、今春

にがんばりましょう。

私達は九年間あたりまえの労働運動として「一人の首切りも転化しよう。」とたたかう部分を切り捨て、破壊し、一層右傾化し、天皇の名のもとに産業報国会運動へと侵略戦争の、労働運動ならざる運動の道をつき進んでいます。

私達は全國のたたかう仲間と東京サミットで帝國主義各国は米帝を中心にして利害調整し、アラブの人民の革命闘争を共同で抑圧し、その血にぬられた石油確保によって、ふたたび侵略戦争をやらん

のたたかう方針を堅持している

としています。日帝はといえども、「元号法制化」攻撃など天皇を頂点とする反動の嵐は一層激しく、朝鮮・アジア侵略戦争への道をまい進しています。

本日の集会に結集された全国のたたかう仲間のみなさん。全勤運動として「一人の首切りも転化しよう。」とたたかう決意を送りたいと思いません。

金本山支部より連絡のあいさつです。ともに、東京サミットで帝國主義各国は米帝を中心にして利害調整し、アラブの人民の革命闘争を共同で抑圧し、その血にぬられた石油確保によって、ふたたび侵略戦争をやらん

のたたかう方針を堅持している

# 日比谷野音

---

## 11 時

無実の部落青年石川氏不当逮捕から十七年、日帝Ⅱ最高裁による上告棄却より二年をむかえんとするこんにち、狹山闘争は重大な局面に突入している。五・二三弁護団意見書提出以降、再審棄却の策動をますます強化する日帝Ⅱ東京高裁にたいして、全国のたたかう労働者人民はいまこそ総力決起せねばならない。五・二三闘争五万人決起をうけつぎ、八・九狹山上告棄却二周年糾弾闘争の爆発をかちとろう。

まひとつのがもとめられねばならないのである。

## 開始された「八・九」への進撃

争をめぐる情勢は、あらたな攻撃局面をむかえている。五月十三日、国語学会で大野晋学習院大教授が「脅迫状は石川さんが書いたものではない」と訴え、つづく十六日には狹山弁護団によつて「脅迫状の訂正日付は四月二八日ではなく二九日」とする新証拠が発表された。さらに狹山弁護団は五月二三日にこの脅迫状訂正日時に關する新証拠についての再審請求補充書と意見書を、三〇日には「殺害・姦淫」と「自白」についての意見書を、東京高裁にたたきつけた。

侵略反革命戦争への人民大動員を策謀する日本帝国主義の、部落解放闘争にたいする攻撃が、かつてない激しさでおしすすめられている。

狹山再審棄却策動を頂点に、「第九の「地名総鑑」にしめされる激發する差別事件、「措置法」三年打ちきり再延長せずの自民党決議などにみられるように日帝は、部落差別攻撃の強化をしておして、戦後部落解放闘争の根底的破壊とその歪曲を画策している。そしてこの攻撃は、日帝の「戦争とファシズムの準備」の重要な一環に位置している。

彼らは七〇年代部落解放運動が、まぎれもなく日本階級闘争の先端的位置でたたかいぬかれてきた輝やかしい歴史を清算し、「部落解放運動」人権擁護運動論をふりかざし、制度要求→中間連合政府実現要求の反動路線へとのめりこんだ。それは体制内の改良のみ重ねによって部落の解放が可能だとする、資本主義の打倒ではなくその擁護と救済を説く反動路線である。

八〇年代にむかう部落解放運動の前進は、かかる社会帝国主義潮流との非

他方、資本主義の危機の深まりと切り合理化・大衆収奪の嵐が吹きあわぬかで、部落へとつづくまじめの

妥協的対決いかんにかかっているといつて、けつして過言ではない。戦闘的根柢不平等労働者人民は田舎へ上り

連続的闘争に立ちあががつている。五月二五日より狹山闘争勝利をかけて全国行進隊が、いま七七日間にわたる激闘を炎天下たたかひぬいている。七月には部落解放第二三回全国青年集会が戦闘的にかちとられた。全国から八・九闘争にむけた同盟登校、同盟休業、狹山スト、狹山地域集会をふくむ創意に満ちたたたかいが、着々と準備されている。

活破壞の攻撃が進行している。部落差別ゆえに社外工・パート・日雇いなどの不安定な労働条件下におかれられた部落大衆は、首切り合理化の犠牲者に供せられている。それは被差別部落の失業実態に鮮明である。七九年度部落解放同盟運動方針によれば運動の活発な地域においても全国平均の十倍、成人の四人に一人が失業状態を強制され、長崎県などでは失業率が

潮流による中間連合政府路線の部落解放運動への持ちこみを許さず、國際主義に武装された眞の権力闘争への道!! 武装蜂起―プロレタリア独裁路線のもとへの大結集を、いまこそ実現するときである。

# 伏見再審抗争にたて

の第一線に加わることができるようになります。勝利への第一歩である再審実現化を目指して全力投球で闘つてもらいたいのです」（『解放新聞』より）

義の沼地へ部落大衆をひきいれようとする社会帝国主義者の抬頭にこそ、い

全国の同志友人諸君！部落解放同盟  
とともに八・九鬭争に決起せよ！

## 大阪府立堺養護学校「障害者」差別解雇弾圧裁判糾弾闘争への支援を訴えます。

全国の「障害者」、その家族、労働者、学生市民のみなさんへ

政府・資本家階級は、反共労働貴族を育成買収し、日和見主義・社会排外主義党派を「資本主義擁護・祖国防衛」の帝国主義的運動として、「政治」に引きずりこみ、支配の延命を「戦争とファシズム」に求め、戦後最大の反動攻勢を強化・激化させています。「民事執行法」「元号法」等の反動法を制定させ、「有事立法」攻撃を強化させ、自衛隊の治安出動と朝鮮・アジアへの軍事侵略を現実化させています。

この反共労働貴族・日和見主義・社会排外主義党派の協力を得た政府は、差別・排外主義を煽り「障害者」抹殺・隔離を合法的に強行しようとしています。七九養護学校義務化、刑法改悪・保安処分新設、無実の赤堀氏への再審棄却・死刑攻撃、「障害者」の生産関係からの大量追放等の差別・分断・隔離・抹殺の攻撃の強化がそれです。

闘争に決起し、且労働者に日和見主義・社会排外主義党派との闘争を呼びかけ、労働者階級の解放、「障害者」解放に向けての前進を切り拓いていかなければなりません。

### このような情勢の中で「障害者」への労働権・生活権剥奪の攻撃は激化・強化している。

大阪府の民間企業は(三、四五三社中)七七年は一六、一七七人の「障害者」を雇用していたのに七八年には一五、三四六人に激減させています。

前年比で一五〇〇人、つまり一人に一人の割合で「障害者」を首切り、追放しているのです。官公庁である大阪府においても事態は同様で、警察・教職員等を除く(七六年改正の身障者雇用促進法によりこれらは、除外、更に裁判所関係、自衛隊、国会職員等の支配中枢関係は全て除外、「精神障害者」は法の適用除外)約一六、〇〇〇人中僅か二〇六人という雇用状況です。

文字通り「促進法」は融和政策の一つだったのです。最低賃金基準法(第八条)からも「障害者」は適用除外されており、従つて、首切りされた多くの「障害者」の仲間の状態、つまり、生活破壊、肉体破壊については、その悲惨さは察するに余ります。

私たちは、政府が融和政策とした「雇用促進法」を労働権奪還の武器に活用し、政府・労働省へ除外職種の撤廃、官公庁、民間への法律を守らす行政糾弾闘争を。そして、政府・労働省へ最低賃金基準法の差別条項撤廃の糾弾闘争を組織し闘い抜かねばなりません。

### 共同作業所、「発達保障論」は「障害者」の労働権保障になるのか。

「障害者」からの労働権剥奪、工場・職場からの「障害者」追放・排除の増加にあって政府は「障害者」やその家族が、働いて人間らしい生活をしたいという要求をすりかえ、最近とみに「共同作業所」を各自治体に作させています。

この共同作業所推進運動のねらいが、なんであるか私たちはしっかりとめねばなりません。

第一に「共同作業所」で「働く」「障害者」の労働者には、現在の労働者への権利保護法は一切適用されないので。最賃法、労働組合法、労働基準法はもちろん、およそ労働者の権利・保護法から除外しており、適用されるのは消防法ぐらいです。

第二に従つて、労働環境劣悪・不全・危険なもので「法」の不適から著しい低賃金、場合によつては、生産労働に対して無給、長時間労働を強要され、生活権無視はむろん肉体破壊を招いてしまうのです。第三に、徹頭徹尾「障害者」間に差別・分断のくさびを打ちこむことです。仕事量は軽度・重度の「障害者」により格差が出ます。これは、団結ではなく、結果的には、差別・対立を派生させるのです。

第四に労働者運動からの徹底した、切断であり労働保障に名をかりた隔離です。第五に親の労働とワンセットした搾取であることも、特に注意しなければなりません。そして、「共同作業所」の「障害者」を労働者としてみなさないことです。

日和見主義、社会排外主義党派の頭目共産党が、この政府・資本家階級の「障害者」への労働政策を「発達保障論」で美化し、擁護し

ていることの反階級性を糾弾せねばなりません。彼らは、各自治体と結託し、政府へ「共同作業所」の建設増加・充実の要求を各地で展開しています。「労働」することにより「障害」が軽減すること、「「元号法」による「障害者」は差別から解放されないのです。この論は、生活権を無視し、一労働者として、階級としてみず、資本主義でも「障害者」差別が解消されるとする、階級緩和剤であり、反動理論です。私たちは「発達保障」としての労働(権)、そのための共同作業所」という全障研II日共派のこの反動理論と闘争しなければ、真の労働権保障はありません。

片平闘争は、労働権奪還、資本の生産関係から排除・追放との対決、糾弾闘争の確立をめざす「障害者」解放運動。

片平氏は、脳性マヒ者であり、多くの「障害者」がそうであるよう、低賃金一日給一一〇〇円、身分不安定のアルバイトで、七二年九月、堺養護学校に採用された。片平氏も四月からの継続就労を強く希望し、府教委・堺養護の糾弾闘争に決起した。片平氏の生活をかけた闘争は、多くの「障害者」、先進的労働者、被差別部落大衆の階級的連帯、支持を得て、七四年四月復職闘争に勝利し、七六年府教委から本採用を獲得し、労働権奪還闘争、「障害者」解放運動の階級的前進を切り拓いた。このように政府の「障害者」支配を根底からゆるがす闘争であったが故に七四・一・二八校長団交を「傷害事件」にデッチあげ、分校の卒業式で継続採用の約束と賃金一四〇〇円を提示したにもかかわらず、片平氏は首切られた。片平氏は、この不当、差別に対し、職場の仲間も支持し、そして元早瀬校長も、三月九日、大手前作業所」という全障研II日共派のこの反動理論と闘争しなければ、真の労働権保障はありません。

A氏は、日共派の組合私物化、「障害者」と教職員が結びつき日共派の運動からは離れないよう不當な圧力をかけていたと証言。「大前分校は、反主流派で本校から警戒されていました。だから、前分会長の綾部先生、本部執行部の佐々木さんの紹介で本校から来た片平さんは(本校のスペイといふ)仕事以外のことは話しませんでした。」このようなA氏でも、片平氏の勤務の劣悪・低賃金・生活の問題を考えない訳にいかず「(七三年)二月一四日、片平さんから非常に日給も低い。通勤距離が長く大変、一番重要なのは三月以降の雇用が不安定、だから組合も真剣に考えてほしいし、組合加入を受け入れて身分を守つてほしいと要求され、非常に心の痛みというか悪かったなあと思いました」と証言。本部の不当な統制をはねのけ、片平氏を支持することになり「その後皆で話し合をもち、自分たちも本気で受けとめねばならない。皆の経意で(片平氏の要求を認めめるよう本部へ)要請しました」と証言。片平氏の要求は(=賃上げ(=公務員試験の年令制限撤廃)(組合加入にして)も切実、現実的説得力をもつていています。「障害者」は、就学猶予、免除、在学中の「障害」の悪化等で、卒業年令が重みます。このため、官公庁からも排除されます。又、多くの「障害者」は、臨時工等でしか就労できず、労働組合からも差別・排除されています。

が組合へ加入しても正採用になれない」と「障害者」差別と本氣で取り組もうとせず、A氏らの運動のつぶしをはかったのです。これは

大阪府・教委の差別行政、教育を免罪するものです。片平氏の首切りをA氏は、單刀直入に「採用の経過から何かあったと思つた。考え方の方があつたので、組合の方から何かあつたと思つた。考え方の方は一緒に働けないと、組合加入を取り下げるから働けない」と証言し、差別と違ふ人とは一緒に働けないと、組合加入を取り下げるから働けない」と証言し、「社会変革をめざす「障害者」を「トロッキスト」とか呼び追放したのです。

### 元校長早瀬敏夫は、片平さんの継続採用は決定していたと二回公判で証言

早瀬は、校長の職務権限で片平氏に雇用を約束した張本人。十七年間校長に在り、「障害児」教育の草分者で、府教委その他に絶大な発言力をもっています。その証言は、「二月中、教職員課へ(事務職員の)定員増の要求にうかがいましたが、又今年もダメになつたと云われた。アルバイトでいくよりやむを得ないという内示が二月末ありました。私は、内示があったから、片平さんに三月九日、四月からの採用を告げた。人ひとり雇う予算がない大阪府ではない……まさかそうなるとは(片平さんが首切りされると)夢にも思わなかつた。四月からも採用されると確信していた」ときっぱり、雇用の有効性を認めたのです。

### 前山ノ口全事務長、彈圧の先兵——府障教の差別性、反階級性を第一九回公判で証言

事務長は、差別解雇を行い、差別発言を繰返し、警察を導入し、弾圧した山本校長と七四・一・二八団交を除いて全て団交に同席しておらず、団交の模様の一部始終を知っている重要な人です。従つて第一に、差別解雇、半人分一日七〇〇円賃金について「(片平さんの主張が)一から一〇〇まで全部データラメとは思ひません。」(七一月三〇日団交で片平さんに同調する発言を校長に制止されたとき)かばうというか身につまされる思いがした「あまり木で鼻をくくった状態ではなしに、人間的なものの言い方もあると校長へ進言した」「半人分を行政用語としては使いません。どこからでたんかいい言葉ではありません」と証言し、解雇の差別性、半人分七〇〇円賃金の差別性、七〇〇円では生活できないこと、団交での校長の不誠実さを認めています。「職員会議、職員集会で証人の言動が追及され紙つぶてなどをぶつけられることはなかつたか」の尋問に「そうです」と証言。このようにして、多くの良識派教職員は、暴力的に押し潰されたのです。校長と一体となつた府障教の暴力的組合、学校運営は、七四年を明けて最高頂に達しました。それまで、団交での同席をさせられていた事務長は、いわゆる「傷害事件」をデツチ上げた七四・一・二八団交では、同席を許されません。しかし、事務長は、強く同席したい意思があつたと証言しています。事務長が、団交の席で、片平さんや私たちに同調する発言を度々行うのを恐れ、むりやり、団交から排除したのです。団交が「傷害事件」に仕組られ方に事務長は、この日、校長の職務命令がないのに日共派教職員とすねにキズのある右翼職員二〇名ほどが団交が終るまで、用事もないのに職員室に居残つていたことを、まず証言しています。次に、教職員の「警察へ連絡」ということについて、これまでの団交から判断して不審に思い、また警察を学校へ導入する事態は大変なことと考えた事務長は、「(校長の指示を)確かめることばを先に言つた」と何度も校長に念を押したと証言しています。校長が病院へ行くのも実に不可解なことが行われています。堺養護の近隣には府立堺福祉センター附属病院(同校から五〇m位)その他にも病院があるのにわざわざ同校から遠く離れた医療機関まで行き診断書を作成しているのです。

### 非政治性をよそおいデツチ上げ診断書を作成し、弾圧の先兵日共派医者糾弾!

耳原病院外科部長沼島は、「診断書の『全治二週間』の『傷』が、カルテによれば当日も翌日も『当てが一せだけ』であり、以後も「治療」をしていない軽傷であったこと。「通目の診断書についても、「治療」にあたつた升木の相談を受けて沼島が作成したこと。この点について、「診断書はさかのぼって作れる」医者によって所見は異なる(どうにでも作ることができる)」と証言し、「傷害事件」の部門、デツチ上げを自己暴露したのです。

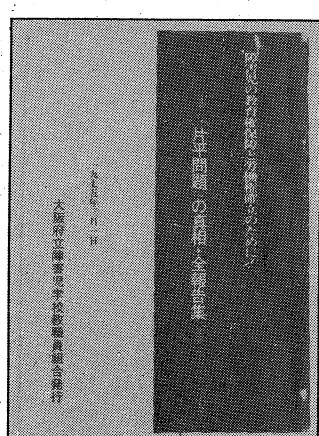
全ての「障害者」解放運動を闘うものは、日本共产党  
の敵対を粉碎しよう!

府障教の片平闘争への敵対・妨害は階級的犯罪行為です。彼らは「片平問題の真相」(以下ウソパンフ)のパンフレットの大量配付、全障研機関誌みんなのねがい、障害者問題研究、そして「前衛」を動員して権力まがいの闘争破壊を策動しています。

ウソパンフは、(一)差別解雇を期限切れ(二)半人分七〇〇円賃金を行政・予算用語、(三)この問題は片平のウソから出発「片平が障害者であるという理由で様々な権利を制限されたり奪われたりして起つたものではなく」と非科学的な差別論を展開し、片平闘争の分断と孤立化を策動し、(四)「障害者」がやむなく臨時工等の差別職種で低賃金・劣悪な労働条件で就労しているにもかかわらず、「アルバイト雇用一日七〇〇円でも労働権保障のワンステップ。それを拒否する片平は悪い、甘えている」と差別的労働条件を陰べいし、それを当然のこととして強要します。これは「障害者」人民の生活破壊・肉体破壊に反対し権利・生活防衛の為に闘うのではなく、資本主義を防衛するものです。彼らは復職にも「不当人事反対、職場に暴力を許すな」と市民的意識を煽り反対したのです。(五)彼らは、権力と一体となり糾弾(權)闘争を絞殺します。山本校長の一・二八団交での差別発言「障害者は社会的法的バランスから考えたら差別されてもしかたがない」を容認しかばいます。一方「障害者」をはじめとした山本への差別・糾弾闘争について「民主主義国家(日本)に於いては!糾弾とは罪状をただし弾がいすること(広辞苑)」とブルジョワ辞典で権威付解釈してみせて「真に差別を受けやむにやまれず、ついカッとなつて暴力をふるつてしまつたのであれば情状酌量の余地がある」と尊大に説教します。しかし、差別者をどうするのかは述べられていません。階級支配が、資本主義が差別・分断排外主義支配によって成り立つていてことさえ彼らは忘れてしまつてゐるのです。私たち「障害者」は近代史的奴隸以下の地位に甘んじる訳には決していかないのです。

全ての仲間たち、日共の敵対を粉碎し、片平闘争を「障害者」解放運動の要として勝利させよう。  
「障害者」解放運動を闘う全ての同志!全障研指導部を先頭とする日和見主義・社会排外主義との闘争を恐れることなく断固やり抜き、思想的・理論的・政治的・組織的分離を組織し、「障害者」解放闘争の階級的前進を切り拓こう!「障害者」の完全解放は、差別・抑圧の元凶である資本主義・自国帝国主義を打倒し、プロレタリア独裁ス・レーニン主義で武装し、労働者階級と団結し、階級的労働運動としつかり結びつき、私たち自身の團結を固め、偉大な事業・「障害者」解放を闘い取ろう!

次回公判九月一七日、午前十時、大阪地方裁判所二〇一  
号法廷  
証人 全障連事務局長 楠 敏夫 氏



▲敵対する府障教執行部(日共)のウソパンフ